



生物多様性、気候変動 既存の国際目標をSDGsで見ると…

SDGsができる前から掲げられてきた国際目標。これらの目標も、SDGsに大きく貢献するものです。その達成に向けた動きはどうなっているのでしょうか。SDGsとはどのような関係があるのでしょうか？

気候変動：「パリ協定」で新たな目標が定められた



2015年に開催された気候変動枠組条約会議で「パリ協定」が採択され、2030年までの新しい目標が合意されました。気候変動については、SDGs目標13に掲げられており、また17目標のリストには「国連気候変動枠組条約（UNFCCC）が、気候変動への世界的対応について交渉を行う基本的な国際的、政府間対話の場であると認識している。」との注意書きが添えられています。

～ パリ協定の内容 ～

- 温度を2℃より充分低く抑え、1.5℃に向けて努力すること
- できる限り早期に世界全体の排出増加を止めること
- 今世紀末に温室効果ガスの人為的な排出と吸収の均等を図ること

パリ協定のもとでの主要国の目標

国名	2020年以降の目標
日本	2030年に2013年比26%削減(2005年比25.4%減)
アメリカ	2025年に2005年比26~28%削減
EU	2030年に1990年比で少なくとも40%削減
中国	2030年頃にCO ₂ 排出の増加を止める CO ₂ 排出のGDP原単位を2030年に2005年比で60-65%削減 一次エネルギー消費に占める非化石エネの割合を2030年に2割 森林ストック量を2005年比で45億立方メートル拡大 等
インド	排出のGDP原単位を2030年に2005年比で33-35%削減 技術移転と低コストな国際資金による支援の下で、 全発電容量に占める非化石エネの割合を2030年に約40% 2030年までに炭素吸収源を25~30億トン分、追加 等
ロシア	2030年に1990年比25~30%削減(※ただし、森林吸収の算入が条件)
カナダ	2030年に2005年比30%削減

生物多様性：愛知目標の達成、鍵を握る「主流化」

生物多様性を守るため、2020年を目標年とする20の目標「愛知目標」。その達成のためには、生物多様性の価値があらゆる分野で理解され、政策に反映されることが必要です。SDGsでは目標14(海)、目標15(陸上)の生物多様性保全が目標に組み込まれていますが、他にもたくさん、関連のある目標があります。2016年12月にカンクン(メキシコ)で開催された生物多様性条約会議COP13では、農業・林業・漁業・観光分野での主流化が話し合われました。今後も、エネルギーや鉱業など、多様な分野での主流化が検討される見込みです。

